

◆経済倶楽部講演会第4085回（9月26日）

再び過ちを繰り返すのか？ 岐路に立つアベノミクス

早稲田大学政治経済学院教授

わかたべ
若田部 昌澄
まさずみ

- *アベノミクスに対する3つの批判
- *2014年にプラスに転じたインフレ率
- *増税でマイナスになった実質賃金
- *ブラザ合意がすべての始まり
- *いちばん景気を良くした竹中平蔵改革
- *円高シンドロームを打ち砕けるか
- *為替で見えるドイツとの違い
- *消費増税のリスクを検証する
- *97年増税時と何が違うか
- *消費増税と安倍首相の関係



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は1年半ぶりぐらいになりますか、若田部先生においでいただきました。

アベノミクスも3年目に入りまして、内閣も改造されましたが、肝心の経済のところがいまひとつぱつといたしません。それで、政策がきちんと整合的にこれから進んでいくのか、そのところがたいへん気になるところでございますので、今日は先生にそこらあたりを中心にお話をいただきたいと思っております。

それでは若田部先生、よろしく願います。
（拍手）

若田部 若田部でございます。よろしく願います。
「再び過ちを繰り返すのか？」岐路に立つア

ベノミクス」ということでお話しさせていただきます。「再び」というのは、これまでもさんざん日本経済は過ちを犯してきました、どうもそのリピートというか、また過ちを犯すのではないかと懸念があるということをお伝えしたいということなんです。アベノミクスについては、いろいろところで話したり、書いたりしていますけれども、現段階でどう考えればいいのかというお話をしたいと思います。

アベノミクスに対する3つの批判

全体として、現状の話、歴史の話、将来の話という三つの話を逐次お話ししたいと思っております。
アベノミクスに関しては、最近、「アベノミ